

受賞の喜びと地域福祉に対する考え方をお聞かせください

当社協は平成18年の合併を機に、それぞれの地域の独自性を活かしながら、「支えあい」を感じる「地域の暮らし」を基本理念とする住民主体の共同のまちづくりを進めています。

基本目標は「共に」をキーワードに「住民参加を高めよう」「共に気づく、つながる」「住民相

平成28年度全国社会福祉大会長表彰を受賞

「支える」から「支え合う」 地域づくりへ

一関市社会福祉協議会地域福祉課長

一関市シニア活動プラザ所長

菅原 敏 氏



入職以来、地域福祉事業を担当。ボランティア研修、小地域活動、移送サービス事業など地域福祉の第一線で活動。一関市地域福祉活動計画策定に当たっては、職員の中核となって取りまとめ、その後、地域福祉担当職員により検証チームを設置するなど、実践及び検証に参画。

ひと
明日へ

互が交流し、支援ができる環境（地域）をつくる「共に支え、つくる」「住民が安心して暮らせるまちを創ろう」「共に行動する、社協の体制強化」の3つを定めています。

地域福祉とは誰もが担い手であり、受け手であることを認め合うこと、共に幸せを感じる地域をつくつていくことと考えています。私たちには福祉に対する住民の気づきを応援し、実践と検証を重ねてきました。それだけに市民の方々と共に受賞を喜びたいと思います。

地域福祉の課題には

どのようなことがあげられますか

課題を大きく分けると、まず社協職員を含めた地域活動の人材の不足が挙げられます。

関係機関等とのつながりを強めていますが、施策の変化が早いことなどから、ゴール（目標）が見えにく

いこともあげられます。時代のニーズに敏感になり、住民の方々に喜んでいただく事業開拓を一層進めなければなりません。

こうした課題解決への過程を通じて、社協各課及び支部の枠を超えて、取り組み姿勢を事業に反映させたい

職員に対して「想像力を持って市民が望む新たな地域福祉を心に描き、そのための仕事を創出しましょ

う。できること、やらなければならぬことを自ら整理し、創造し、実践しましょ」が私の口ぐせとなっています。

一関市シニア活動プラザ及び中高生ボランティアスクールも活発ですが

2013年にオープンした一関市シニア活動プラザには、たくさんの講座があり、40を超える団体が活動しています。社会参加、社会貢献を求めるシニアの皆さんに、自らの学びを地域に役立ててもらえるよう支援しています。

多くのシニアは自分の役割を持つて地域に出向き、その力を地域につなぎ、地域ニーズに応えた活動を続けています。1月には「シニアフェスタ」も計画しています。

一方、中高生の頃から福祉を身近に感じ、豊かな福祉感を養つてもらおうとスタートした中高生ボランティアスクールは来年20年。延べ参加者もかなりの数に上っています。

今ではNPOなど諸団体と協働した事業や保育体験、国際交流など多岐にわたっています。福祉を担う次世代の若者から「スクールは福祉の道に入るきっかけになりました」との声を聞くと嬉しくなります。種まきは必ず花開き、地域福祉を担う力になります。

職員は素早く柔軟な対応、開拓精神をモットーに、住民のニーズに合わせたサービスを創出しています。

失敗してもいい、まず行動することです。人とのつながりほど面白いことはありません。東日本大震災及び台風10号支援活動で、職員は多くの他社協職員と出会いました。県内社協の職員同士が、情報交換できるネットワークが大切と思っています。

（盛岡地区）

（株）岩手県私立幼稚園連合会
(有)岡田保険事務所
(有)岩手架設工業
(有)盛岡タイムス社
トップツアーリー(株)
永代印刷(株)
（株）あさ開
（株）リードコナン
(株)岩手めんこいテレビ
(株)石田商会
トッピング(株)

（株）杜陵印刷
岩手県酒造組合
天理教岩手教
（株）杜陵信用組合
東北電力(株)
（株）杜陵支店
（株）東光倉石手工場
(有)ほるいわ

岩手県社会福祉協議会では、企業・団体等の皆様からの協賛をいただき、東日本大震災津波の被災者への支援をはじめ、生活困窮者自立支援制度や新たな社会福祉の取組へも積極的に関わり、豊かな福祉社会の実現に向けて全力で活動を展開しています。

今年度も、次のとおり、たくさんの皆様から協賛金を頂戴いたしました。

ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

協賛企業
団体等の
皆様へ

